

対チャド共和国 事業展開計画

2025年 4月 現在

基本方針 (大目標)	平和と安定に資する貧困削減支援
---------------	-----------------

重点分野 1 (中目標)	基礎的社会サービスへのアクセス及び質の向上並びに経済脆弱性の克服
-----------------	----------------------------------

開発課題 1-1 (小目標) 基礎的社会サービスへのアクセス及び質の向上	【現状と課題】 チャドは、国土の約3分の2がサハラ砂漠に覆われた内陸国であり、伝統的に綿花栽培及び畜産業中心の後発開発途上国である。2003年に石油生産を開始し、同国の輸出の約8割を占める基幹産業にまで成長したが、一人当たりGNIは690ドル（2022年）であり、貧困削減は大きな課題となっている。		【開発課題への対応方針】 人間の安全保障の推進を目的として、食料安全保障の改善に向けた支援を行う。							支援額 (億円)	SDGs	備考			
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間											
				2024 年度 以前	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度						
	食料安全保障の推進プログラム	食糧援助(WFP連携)	食糧援助	■■■■■■■■■■									2.00	2	
	危機の影響を受けた人々への食料・栄養支援、食料危機にある人々へのリーンスーズン中の支援及び緊急学校給食提供	マルチ		■■■■					200万米ドル	2	WFP連携				
開発課題 1-2 (小目標) 人的資源の強化	【現状と課題】 チャドの国家開発には、非石油関連産業及び経済・社会インフラの強化が不可欠であるが、十分な能力を備えた人材が不足しており、人材の育成が必要である。		【開発課題への対応方針】 各種研修を通じ、国家開発に関わる政府関係者の能力強化を図ることにより、チャド政府による開発課題への対応を推進する。							支援額 (億円)	SDGs	備考			
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間											
				2024 年度 以前	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度						
	政府人材等育成プログラム	アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)	課題別研修他	■■■■■■■■■■										4,8	
		食料安全保障のための農学ネットワーク(Agri-Net)	課題別研修他	■■■■■■■■■■										4,15	
SDGsグローバルリーダー(2024-2026年度)		課題別研修他	■■■■■■■■■■							4,17					
仏語圏アフリカ刑事司法		国別研修	■■■■							4,16					

重点分野2 (中目標)	チャド湖周辺及びサヘル地域の平和と安定												
開発課題2-1 (小目標) チャド湖周辺及びサヘル地域における平和と安定の促進	【現状と課題】 チャドは1960年の独立後、内乱や近隣国との紛争の影響を受け、長年にわたり不安定な情勢が続いたため、国家開発が停滞した。2010年にスーダンとの和平合意が成立したことにより、治安情勢の安定化の兆しを見せたが、2014年以降のチャド湖周辺地域における暴力的過激派組織やテロ組織の活動の活発化を受け、多くの難民・国内避難民等が発生した。また、これまでの難民の受入れに加え、2023年4月に発生したスーダンにおける国内紛争により、チャド東部には多数の難民・帰還民が流入しており、大規模な人道危機が生じている。					【開発課題への対応方針】 チャド湖周辺地域及びサヘル地域の情勢が不安定化する中、チャドを含む地域全体の脆弱性の克服は喫緊の課題である。近隣国からの難民受け入れによって負担が増えているホストコミュニティへの支援や治安対策能力強化に資する協力を検討していく。							
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考	
				2024 年度 以前	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度				
	人道危機対処プログラム		チャド東部における最も緊要なニーズへの対応	マルチ		■					2百万米ドル	3	UNHCR連携
			経済社会開発計画	無償	■						3.00	16	テロ対策機材供与
チャド東部における避難民コミュニティへの平和及びレジリエンス強化			マルチ		■					0.8百万米ドル	3	IOM連携	
スーダン危機の影響を受けたチャド東部におけるコミュニティにおける食料安全保障・栄養状態の向上及び女性のエンパワーメント支援			マルチ		■					1百万米ドル	3	FAO連携	

【凡例】 「協定」(=全ての協力準備調査)、「詳細設計」(=詳細設計)、「基礎情報調査」(=基礎情報収集・確認調査)、「技プロ」(=技術協力プロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」、「個別機材」、「個別研修」、「課題別研修他」(=課題別研修及び青年研修、長期研修)、「JOCV」(=JICA海外協力隊)、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」(=科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型、SATREPS))、「草の根技協」(=草の根技術協力)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(=開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「SDGs調査」(=途上国の課題解決型ビジネス(SDGsビジネス)調査)、「無償」(=以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)「食糧援助」(=食糧援助)、「一般文化」(=一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(=草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(=緊急無償資金協力)、「日本NGO」(=日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(=草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(=円借款、海外投融資)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多国間協力スキーム)、「基礎調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「ニーズ確認調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「ニーズ確認調査」)、「ビジネス化実証事業」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「ビジネス化実証事業」)、「実線「――」」(=実施期間)、「破線「- - -」」(=実施予定期間) ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。

【SDGsゴールの説明】1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」、14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf